



移住者名	新田 政司
都道府県	高知県 宿毛市 沖の島
移住先	神奈川県⇒高知県
移住年	2007 年
職業	会社員⇒漁師
家族構成	夫婦
移住形態	1 ターン

Q. 移住したきっかけは？

【時期】

私にはやりたいことが二つありました。一つは橋を架けること。もう一つは漁師になること。しかし二つを同時に職業とすることは到底無理な話です。そこで人生の前半で橋を架け、人生の後半で漁師になることをザックリと決め、概ねその路線で進捗してきました。前半・後半の分岐点は大雑把に、まだ体力の残滓が残っているであろう 55 歳頃としていたのですが、新規漁業者支援制度が 49 歳までを対象に実施されることを知るにあたり、前半の目標は達成した事にして、ちょうど 49 歳で後半の目標に取りかかりました。その年が 2007 年です。

【場所】

漁師になりたいわけですから、趣味は当然船からの釣りでした。方々に釣りに出かけた中で、最後は気候、景観も肌に合う沖の島がホームになりました。漁師さんとも気心が通じ、漁協でも受け入れていただき、結果ここに移住し、後半の目標を筋金の入ってない漁師の幼生から出発しました。

Q. 移住の際不安に思ったことは？

不安の要素は大小問わず解消しておく、あるいは見込を立てておくべきで、それがなされていない段階で行動に移すことは、先々の躓きの元になると考えていたので、移住に際して不安はありませんでした。でないと移住した先の社会状況、環境、文化、習慣、言葉などの違いから発生するであろうさまざまな葛藤と併せて大変な荷物を背負い込む事態となり、快適な生活は望めません。たぶん・・・。

Q. 移住して良かったことは？

- ・ 自宅を山の中腹
- ・ 灌木の中に作ったので、木に囲まれた環境で暮らしている。
- ・ 畑で自前の果物や野菜を作ることができる。
- ・ よく働くということは、昔から趣味であった釣りを朝から晩までするということ。
- ・ 島の子どもを全員 (11 人) 集めて、その親や友人と焚木パーティーを開催可能。街の中では焚木など絶対無理。
- ・ 良くも悪くも自分の都合でスケジュールを決め、しかも直前変更も可。ノープランで一日を過ごすことも可。もともと外で動くのが好きなこともあり、それが実現出来ているので満足です。



Q. 移住を考えている方へメッセージ

- ・大都市、地方都市、山間部、どこへ移住するにしても、家族がいるなら満場一致であること。
- ・転勤、自営でないなら、生活の基盤をしっかりと見極めておくこと。お金は必要です。
- ・出発日前日にワクワクしないならやめた方が良い。
- ・移住先が小さな社会であるなら、早く共同体の一員になるように努力すること。
- ・移ったからには、楽天的に暮らしたほうが良いような気がします。